

1 - 6			
主題	ご利用者の思いを汲み取り、限られた時間で何が出来るか考える		
副題	丁寧で優しい寄り添う介護		
キーワード 1	寄り添う介護	キーワード 2	なし
		研究(実践)期間	12 ヶ月
法人名	社会福祉法人 恩賜財団東京都同胞援護会		
事業所名	特別養護老人ホーム ゆたか苑		
発表者(職種)	杉田あかね(介護職員)		
共同研究(実践)者	小林怜史(介護職員)		
電話	03-3959-2129	FAX	03-3959-2149
今回発表の事業所やサービスの紹介	社会福祉法人立で平成 8 年 4 月、隣接する長崎公園と共にゆたか苑は開設された。50 床の特養で現在 4 床のショートステイを併設している。その他居宅介護支援事業では 3 名のケアマネージャーが活躍している。		

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

当施設は平成 21 年から看取り介護を行い今年で 7 年目を迎える。

その間当施設で最期を迎えたご利用者が多くいらっしゃる状況である。

当施設は看取りを開始されると週に 1 度のカンファレンスとお亡くなりになった後のデスクカンファレンスを実施している。

デスクカンファレンスの中で、ご家族様から「あの時ああしておけばよかった」との後悔の声が聞かれている。「丁寧で優しい介護」を施設理念としている当施設にとって、ご利用者の思いを汲み取り、残された時間の中で何が出来るかという事を考え、今回の課題とした。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

看取り介護を迎えるご利用者は意思表示を伝えるのは困難な為、看取りを決断するご家族様の思いは計り知れない。終末期を迎えると、その死をどのように受け止めるかという個々の価値観があり、看取る立場にあるご家族の思いも錯綜する事も当然の状態である。ご家族様の不安や心配を引き出し、ご利用者とご家族様の「これからどういう最期を迎えたいか。」という思いを元に、ご家族様の後悔の念を少しでも払拭することで、当施設で最期を迎えることが出来て良かったと思える「丁寧で優しい寄り添う介護」が更に実践できるのではないかと考えた。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ・看取り開始時期に各専門職が集い、ご本人のケアプランはもちろんの事、残されたご家族様の思いに寄り添い、ゆたか苑で最期を迎えることが出来て良かったと思えるサービスを行う。
- ・機能訓練指導員により、ベッド上での安楽なポジショニングの検討や、状態の変化に伴い車椅子の変更を行なう。
- ・1 時間毎の巡回と、ご本人の様子を細かく記入するチェックシートを作成した。
- ・看取り開始に伴い、緊急時のチャートを、看取りのフローチャートへ変更する。
- ・タクティールケアを定期的に実施する。
- ・看取りの知識を深める為に、施設内 OJT を行なう。
- ・施設に隣接している公園へ、日光浴や散歩へ出かける。
- ・職員へ看取り後の振り返りとしてのアンケートをとる。

《4. 取り組みの結果》

- ・ご家族の小さな希望を汲み取り、実行する事で、ご利用者のご家族が少しでも一緒にいられる時間を増やす事が出来た。
- ・タクティールケアを実施する事で、身体の浮腫みや苦痛の緩和を図る事が出来た。
- ・フローチャートを作成する事で、職員の不安の解消に繋がった。
- ・看取りの知識が深まった事で、職員がご利用者に会ってから退勤したりする様子が見られた。
- ・最期を看取りたいと希望していたご家族へ、施設への宿泊を勧めたが、ご家族が遠慮してしまい、最期の瞬間を立ち会う事が出来ず反省点として挙げられた。

《5. 考察、まとめ》

当施設での役目は、ご利用者にとって、安楽に過ごせる環境とご家族の思いを汲み取り、ご家族が最期を受け入れられるようにする事である。大切な時を過ごせるよう、職員がご利用者のご家族を繋げて、これからも優しく丁寧で寄り添う介護に取り組む。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本実践発表を行なうにあたり、ご本人・ご家族に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しない事、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得た事とした。

《7. 参考文献》

「介護施設で看取りということ」甘利てる代（2007 年）三一書房
「タクティールケア入門」タクティールケア普及を考える会（2008 年）日経 BP 出版センター

《8. 提案と発信》

看取りを判断するのは職員ではなくご家族様であり、決断するご家族様の思いは計り知れない。看取りを決断するまでの間も、看取った後もご家族のご利用者へ対する思い出や後悔は続いていくのである。

ご家族から職員へ、ご利用者との思い出を話してくださる事がある。後悔している事を話される事もあるが、負の感情を打ち明けやすい雰囲気、環境、信頼関係を作るのも職員の役目なのではないだろうか。当施設で最期を迎える事を選択したご利用者のご家族に安心していただけるには何が大切なのか日頃から考える事が求められているのではないか。